

# わかば通信第8版さくら号

桜だよりのごあいさつ

さくらさくら



近藤内科駐車場のさくら

春満開。皆様いかがお過ごしでしょうか。桜の季節は終わってしまいましたが、今年の桜はいかがでしたか？お花見には行かれましたか？近藤内科病院の駐車場でもかわいい花をつけたようです。去年よりは少し多く花をつけたようです。ご覧いただきましたでしょうか？

桜を見るたび日本に生まれてよかった、日本人でよかったなあと思います。桜前線、桜吹雪、宵桜、桜色に桜餅。日本人はとかく桜を愛し、桜に対して特別な感情があるようです。桜にまつわる美しい日本語がたくさんあります。どうぞこの時季、日本の四季の美を満喫してみたいはいかがでしょうか。

## 2004年日本建築学会作品選奨に選出

Selected Architectural Designs

このたび我が近藤内科病院が「2004年日本建築学会選奨」に選ばれました。また同時に「徳島県まちづくり環境大賞」、「徳島市街灯り賞」にも選ばれました。当院の建築は早稲田大学の古谷先生はじめ、NASCA、津野建築設計室の共同にて建設されたものです。その中には構成から照明に至るまで、プロこだわりのコンセプトが満載されており、快適な空間を演出してくれています。下記は建築学会の賀村 智氏の選評です。

今後ハードに負けずにソフト面の更なる充実を目指し、外観に負けない近藤内科病院を築いていきたいと思っております。

### 選評……賀村 智

■正面に配置されたユニークな造形の屋外階段は病院とかホスピスを感じさせない。遊園地かレジャー施設に来た印象を与える。設計者のリベラルで大胆な発想を感じさせられた。正面から裏面へ突き抜ける三本の廊下は院内の公共空間を形作り、開放的で明解である。内部の壁はほとんど白で統一され、随所にある光庭テラス、吹き抜け空間からの光と影を反映し、陰気になりがちな病院空間を気品のよい、気持ちのよい雰囲気になっている。カフェコーナー、デイルーム、中庭テラス、眺望コーナーと患者サイドの空間がたっぷり配置されている。広々としたナースゾーンは患者にもオープンにされているのはユニークである。

床まで開放された縦長の開口部は患者の視界、感覚を内から外へ、社会へと導き実に開放的で気持ちよくさせている。病院機能を十分に追求したうえで患者サイドの空間を見事に演出している。設計能力はもとより、施主の意識の高さと理解能力に感嘆させられた作品である。

(建築雑誌 増刊 作品選集 より抜粋)

## Information

今月のお知らせ

### ■ 診療報酬改訂のお知らせ

平成16年度より診療報酬が変わりました。わかりやすく申しますと病院で払うお金の単価が変わったということです。値上がりしたもの、値下がりしたもの各々にあります。

代表的なもので言えば初診料、再診料、またお薬の値段も多少変動がありました。ですからいつもと同じ治療、お薬、処置だったのにいつもと支払うお金が違う、と思われる方もいらっしゃるでしょうが、それはこのたびの診療報酬の改訂によるものです。疑問に思われたら受付までお申し出下さいませ。

### ■ 外来診療医師の変更のお知らせ

この4月より外来診療医師の変更があります。愛すべき加藤先生が転任され、糖尿病外来としまして吉本先生(土曜日の午前)が、消化器外来としまして増田先生(木曜日の午後)が、内視鏡担当としまして黒川先生(水曜日の午前)が新しく加わって頂けることになりました。

### ■ 健康教室のお知らせ

5月22日(土) 土井理学療法士による「脳卒中になったら、脳卒中になる前に」  
6月26日(土) 吉本勝彦医師による「糖尿病シリーズ 1」

いずれも14:30～ 近藤内科病院3F カンファレンスルームにて  
ご希望の方は受付までお申し出ください。

## 平成16年度新人紹介

Hello, new faces !!

春とともに我が近藤内科病院に新しい仲間が加わることになりました。ひとりひとりの自己紹介とともにこれからの抱負を語っていただきました。職員一同、今後とも宜しくお願い申し上げます。



**大下博美**  
内科病棟看護師

ひとりひとりの患者様とできるだけ多く接し、個人のニーズに応じた看護ができるように日々努力していきたいと思います。



**新田妙子**  
医療相談室  
MSW(メディカルソーシャルワーカー)  
社会福祉士  
精神保健福祉士

相談室としての役割を果たせるよう頑張りたいと思います。



**京小晃子**  
緩和ケア病棟看護師

わからないことは質問して教えてもらい、いろんなことをたくさん身につけていきたいと思います。



**石川陽子**  
外来看護師

患者様、家族の皆様から安心して、信頼して頂けるように、また笑顔絶やさず頑張っていきたいと思います。



**西野敦子**  
緩和ケア病棟看護助手

この春から看護学生・看護助手、勉強と仕事の両立ができるよう、職場の皆さんの役に立てるよう頑張りたいと思っています。



**上原郁子**  
緩和ケア病棟看護助手

4月から准看護学生です。まだまだ勉強不足でご迷惑をかけますが、少しでも患者様や皆様のお手伝いができるよう、努力したいと思います。

## 3月の健康教室 ピロリ菌と胃がん・胃潰瘍・胃炎

health information for you

ピロリ菌は20年前、オーストラリアで発見された細菌です。今や日本人の40歳以上の80%が感染していると考えられ、幼少の頃の衛生状態と深い関係があるのではないかとわれています。このピロリ菌に慢性に感染していても胃痛などの症状が出ないことがあり、体調が弱ってきたときや免疫力が低下してきたときに症状として出現することが多いようです。

長期に感染した結果、萎縮性胃炎となり、粘膜層が崩れ、粘液の分泌障害が起きてきます。この胃壁保護の粘液の分泌が障害されることによって胃潰瘍を引き起こすケースが多いのです。またピロリ菌感染者1246人中36人が6年後に胃がんを発生したというデータもあります。

診断は息を吐くだけでできる簡単なテストでわかります。治療としては抗菌薬による除菌を行います。現在胃炎を患っている方は胃炎を治療してからピロリ菌の治療をすることで胃がんの早期発見、治療にもつながります。

除菌をしたら食事がおいしくなり、よりよい食生活が遅れることでしょう。

